

町民参加の町史づくり



竹富町史だより

2009・3・31

第30号



竹富町教育委員会

沖縄県石垣市美崎町 11 番地
TEL (0980) 82-6191

目 次

宮良高弘氏（札幌大学名誉教授）から貴重な民俗資料の寄贈を受ける.....1

竹富町史編集委員会の動向.....2

業務日誌.....4

「万骨」の歴史顕彰を.....8

『竹富町史だより』目次一覧.....12

平成20年度受贈図書一覧.....21

沖縄県立図書館八重山分館の存続についての要請.....23

編集後記.....24

●表紙の写真●

波照間島の港の光景である。昭和38年に人々の暮らしや宗教、文化等の調査のために島を訪れた社会人類学者の宮良高弘氏が撮ったもの。出港を待つ沖止まりの定期船・八島丸、定期船に向けて漕ぎ出そうする漁船、桟橋の上では出荷される豚が4頭ほど転がされ、島の若者が縛り上げている様子が分かる。桟橋の周辺海域は浅瀬のようで、一部海底の砂利類が顔を覗かせている。さらに遠くにはカツオ漁船が碇を下ろしている。当時の八島丸は石垣島と波照間島間を片道4時間も要した。今は高速船で1時間に短縮されたことを思うと、隔世の間がある。

宮良高弘氏（札幌大学名誉教授）から

貴重な民俗資料の寄贈を受ける

宮良高弘氏（札幌大学名誉教授）の収集された民俗資料の贈呈式が、

平成二十一年三月二十六日午後一時から、竹富町長室にて行なわれた。

宮良氏の弟である徹氏が寄贈資料目録、沖縄大学教授の田里修氏がDVDを川満栄長町長に手渡し、徹氏より「資料が竹富町で保管され、後学のために活用されることを願う」との言葉があった。

石垣市出身の宮良氏は、文化人類学的な視点から沖縄を學問的に研究した先駆者で、『波照間島民俗誌』（一九七二年・木耳社）、『日本文化を考える』（一九九三年・第一書房）など、その他多数の著書がある。それだけに今回竹富町教育委員会に寄贈された資料の価値はきわめて高いものだといえる。

寄贈資料は主に一九六〇年代における八重山における祭事や集落風景を写した写真や家譜などで、とりわけ波照間島に関するものが多い。これらの中うち竹富町に関する資料が多くを占めることから同町教育委員会に寄贈し、今後の資料の活用については竹富町教育委員会に一任することとなつた。

また同時に、田里修氏が代表する「沖縄近代法の形成と展開」の研究プロジェクトから、これらの資料をデジタル化されたDVD6枚の寄贈

があつた。これには当プロジェクトが研究の推進に、これらの資料が重要であると考え、宮良氏の親族と相談し、共同研究者・森謙二氏（茨城キリスト教大学）によってデジタル化したという経緯がある。寄贈式では、宮良氏と本研究プロジェクトのご厚意にお礼を申し上げ、寄贈された資料について、竹富町教育委員会竹富町史編集係で有意義に活用することの確認がなされた。



宮良徹氏より川満栄長町長に寄贈資料目録が手渡される
(八重山毎日新聞社提供)

竹富町史編集委員会の動向

第23回—島じま編の進捗状況が確認される—

第23回竹富町史編集委員会が、平成20年2月16日午前10時から、竹富町役場2階議会委員会において開かれた。出席者は17名、欠席者は1名。

編集委員会に先立ち、大盛武町長から挨拶があり、通事係長の事故を深刻に受け止め、町史編集の緊急な対応が求められていることを述べ、つづいて富本傳総務課課長から今回の編集委員会にいたる経緯と平成20年度の町史編集に関する予算の説明があった。

編集委員会は、登野原武編集委員長を議長に、①「『竹富町史』島じま編第2巻～8巻進捗状況について」、②「今後の編集・発刊計画について」、③「その他」の3項目が審議された。

①について、島ごとに報告がなされ、各島の進捗状況の確認がなされた。竹富島編は平成20年発刊を計画通り進めるべく、3月20日を原稿提出の締め切りとし、竹富島編が島じま編全体の指針となることの責任の重さを再確認した（石垣久雄専門部会長）。

②については、平成20年度の「竹富島編」の発刊を皮切りに、その後隔年ごとに「小浜島編」「黒島編」「新城編」「鳩間島編」「波照間島編」「西表島編」とつづいて発刊することが決定された。

このとき、出版順序を入れ替えることもできるよう、融通性を持たせた計画を考慮すること、島じま編原稿の作成については、今年度中に委員長名で執筆依頼をし、委嘱状を交付することが承認された。

③は主に原稿料や資料の収集について審議された。後者は積極的に資料をストックしていく方向を模索すべきであると里井氏から提案があった。予算がなくとも原稿を作成し、翻刻・解説をストックしていくことの必要性が強調された。

第24回—島じま編の発刊計画決定—

第24回竹富町史編集委員会が、平成20年4月29日午前10時から、竹富町役場2階議会委員室にて開催された。出席者は編集委員15名、欠席者1名。事務局として町史編集係嘱託・飯田泰彦、教育委員会総務課から3名（嵩原力

課長、仲盛敦係長、嵩原智昭主事）がオブザーバーとして参会した。編集委員会に先立ち、琉球大学・花井正光氏の委嘱交付が行われた。

まず大盛武町長から挨拶があり、町史の本編ともいってべき「島じま編」の編集がそのまま世界文化遺産の登録に向けての基盤となること、編集委員及び情報提供者の高齢化が進んでいることから、急を要する事業であることへの理解をお願いした。また、現代社会のめまぐるしい状況変化と価値観の多様化に応じた、編集方法が求められており、早い時期の完成を求めていた。具体的には、平成20年度より毎年一冊ずつ島じま編を刊行していく、計画で予算を計上していることの報告がなされた。

つづいて慶城久教育長の挨拶があり、組織改革により町史編集係が教育委員会総務課の管轄になつた経緯が説明された。また、市民参加の充実した町史になることを期待する旨、挨拶があつた。

平成20年度から、「竹富町史」の本編ともいってべき「島じま編」が発刊され、その発刊計画について、第23回編集委員会（平成20年2月16日開催）において、竹富島を皮切りとして、隔年ごとに刊行することが承認されたが、編集委員及び情報提供者の高齢化を危惧し、町史編集の短縮化を望む声があつた。本委員会では発刊計画の見直しを主題に審議された。

この計画について、「竹富島編」の進捗状況の報告が求められ、石垣久雄竹富島編専門部会長より説明があつた。氏は原稿の集まりが芳しくないが、最終的な審査を5月15日に行なったことを主張し、編集委員会での承認を求めた。これに対して、多くの編集委員会から、この調子でいくと平成19年度の筆耕費の執行は無理ではないかとの疑問の声があがり、審議の結果、竹富島編の発刊は来年度とし、各島もそれとしたがつて一年ずつ後にずらして発刊することに決定した。

改定された計画は以下の表の通り。

| 年 度 | 刊 行 | | 筆 耕 |
|--------|------------------------|-----------------------|-----------------------|
| | 平 成 21 年 度 | 竹 富 島 編 | |
| 平成22年度 | 小 浜 島 編 | 竹 富 島 編 | 小 浜 島 編 |
| 平成23年度 | 黑 島 編 | 黑 島 編 | 黑 島 編 |
| 平成24年度 | 新 城 島 編 | 新 城 島 編 | 新 城 島 編 |
| 平成25年度 | 鳩 間 島 編 | 鳩 間 島 編 | 鳩 間 島 編 |
| 平成26年度 | 波 照 間 島 編 | 波 照 間 島 編 | 波 照 間 島 編 |
| 平成27年度 | 西 表 島 編 | 西 表 島 編 | 西 表 島 編 |

竹富町史臨時委員会——「資料編 近代5」の発刊を決定——

資料・波照間事務所「島府通達綴」の所在が確認されたことに伴い、この資料の位置づけと扱いについて、「竹富町史編集委員会規則」第8条に基づき4月30日午後2時から、竹富町史編集室にて緊急の臨時委員会が開かれた。出席者は登野原武、石垣久雄、三木健、仲盛敦（当局）、飯田泰彦の5名。

「島府通達」は、明治35年1月から明治37年12月における、八重山島府と波照間事務所のあいだで交わされた通達の綴りである。波照間事務所にあつた資料であるが、同資料が八重山の島々に通達されていることから、八重山全域にわたつて資料を活用できるという点でも有意義である。内容は、土地整理に関わるもの、清潔法の日割り、徴兵身体検査の日割り、儉約貯蓄の件、出征軍人死亡の通達など、多岐にわたり近代八重山を浮き上がらせる資料として貴重であることが確認された。

この扱いについては、登野原氏が平成11年、すでに翻刻済みであることから、平成20年度に「資料編 近代V」として発行することに決定した。これは資料集を完成させたうえで、資料を整え、それらを活用した「島じま編」を編集していくという、「竹富町史編集基本構想」にも合致するところである。また、第24回編集委員会で発刊計画を一年ずつ後にずらすことが決定しているので、その枠組みを変えずに進めていくれるメリットがある。

編集については町長挨拶、編集委員長挨拶、改題 資料、編集後記をつけたかたちで一冊とする。

そのとき、臨時委員会の出席者に、歴史学がご専門の西里喜行氏、里井洋一氏と、波照間島編専門委員会の玉城功一氏、本田昭正氏を加えて、小委員会を発足することになった。

第25回——「資料編 近代5」「島じま編」の進捗状況を確認——

平成21年2月21日（土）午前10時より、竹富町役場2階議会委員会室（会議室）にて、第25回竹富町史編集委員会が開催された。委員会に先立ち、委員の任期（2年）満了に伴い、竹富町史編集委員委嘱状交付式が行われ、川満栄長町長より12人の委員に委嘱状が手渡された。

ひきつき竹富町史編集委員会を開会し、川満栄長町長、富本傳副町長、慶田城久教育から挨拶があつた。川満町長からは、歴史は現在の礎であるの

で、歴史と対話しながら、竹富町の未来にメッセージを発することの意義と責任の重大さを述べ、各分野の第一線で活躍されている、編集委員の先生方へ協力をお願いした。富本副町長からは、予算計画について触れながら、竹富町史編集の重責と「島じま編」の完成への期待を述べた。慶田城教育長からは、竹富町史編集に万全を期して取り組めるよう、事務局の体制を整える旨、挨拶があつた。

また、病気療養中の通事孝作係長も出席し、あたたかい拍手で迎えられた。川満町長と通事係長が握手を交わし、委員会で通事氏の回復を喜んだ。

審議に先立ち、委員長、副委員長の選任が行われ、登野原武氏を委員長に、西里喜行氏を副く委員長に再任した。

今回は、「資料編 近代5」と、各島の「島じま編」の進捗状況の報告がなされた。また、平成28年度に「自然編」を刊行することに決定した。

竹富町史編集委員（五十音順）

○印は委員長、○印は副委員長

阿佐伊孫良（NPOたきどうん事務局長）

新本光孝（琉球大学名誉教授）

石垣金星（西表をほりおこす会会长）

石垣久雄（石垣市文化協会副会长）

上江洲儀正（襟南山舎代表取締役社長）

大城肇（琉球大学副学長）

黒島精耕（元竹富町教育委員会教育長）

里井洋一（琉球大学教育学部教授）

玉城功一（元八重山商工高校教諭）

當山善堂（元八重山支厅長）

登野原武（元竹富町教育委員会教育長）

西里喜行（元琉球大学教授）

玻座真武（元白保中学校教諭）

花井正光（元那霸高校教諭）

本田昭正（元琉球新報副社長）

吉川安一（名桜大学国際学部教授）

3

業務日誌

—平成二十年度竹富町史 編集室の動向—

・竹富島編専門部会開催。

四月二八日

・竹富島編専門部会臨時ミーティング開催（町史編集係）。進捗状況の確認。出席者は石垣久雄、阿佐伊孫良、狩俣恵一、飯田泰彦。

・登野原武氏と通事係長のお見舞い。

四月二九日

・第二四回竹富町史編集委員会開催。編集委員十五人が出席し審議。

・花井正光氏に編集委員の委嘱状を交付。

四月三〇日

・編集委員から発刊計画の見直しの提案あり。

・「島庁通達綴」の確認に伴い、午後よ

り緊急委員会を開く。狩俣恵一氏より

竹富島編原稿「総説」を受理。

五月一日

・登野原武氏、石垣久雄氏、飯田泰彦の

3人が通事孝作係長を訪ね、緊急委員

会の報告をし、今後の見通しを検討す

る。

五月二三日

・西表島編学習会を開催（古見）。

五月二十四日

・西表島編学習会を開催（祖納）。

五月二十五日

・竹富町史だより第二九号発送。

四月二二日

・高嶺方祐氏より竹富島編原稿「民俗芸能」「歌謡」を受理。

四月二六日

・玉城功一氏の取次ぎにより、「島庁通達綴」の原本所在についての確認調査。

五月一〇日

・三木健氏に「町史だより」への寄稿を求める。

五月二八日

- ・「町制六〇周年の歩み」をまとめるにあたり、原案を作成。

五月二九日

- ・竹富町史だより目次一覧に着手（六月十三日完了）。

六月二日

- ・小浜島に関する資料目録作成。

六月三日

- ・第一回小浜島編専門部会開催（町史編集係）。在石垣執筆者を招集。

六月一〇日

- ・第二回小浜島編専門部会開催（小浜公民館）。在小浜島執筆者召集。

六月二十四日

- ・新城編調査カード入力作業。

六月二七日

- ・新城島編専門部会開催。出席者は登野原武、野底宗吉、安里功、安里碩八、上江洲儀正、安里精善。

七月二日

- ・竹富町制六十周年記念式典において、竹富町史編集委員から登野原武氏をは



町制60周年式典

じめ十四名が自治功労者として表彰される。

七月一三日

- ・西表島編専門部会を開催（祖納）。向井進氏、永岡久美子氏に西表島専門委員として委嘱状を交付。

七月二五日

- ・竹富町史編集委員会から沖縄県教育長宛に「沖縄県立図書館八重山分館の存

続についての要請」を提出（23頁参照）。

八月一日

- ・慶田盛英子氏より小浜島の染織について聞き書き。

八月一六日

- ・波照間島編専門部会を町史編集室にて開催。在石垣執筆者を招集。

九月一日

- ・「島庁通達綴」入力開始（→二〇〇九年一月十三日済）。

九月八日

- ・「黒島に関する資料目録」作成（→九月十日）。

九月一二日

- ・黒島編専門部会開催。鳩間真英氏、本成尚氏に専門委員委嘱状を交付。

九月二四日

- ・金武正紀氏より竹富島編原稿「遺跡・遺物からみた竹富島」受理。

十月一六日

- ・得能壽美氏に竹富島編原稿「寄百姓」を執筆依頼。

・竹富島編専門部会委員各位に十月三一

日締め切りと発刊計画の通知。

一月六日

- ・得能壽美氏より竹富島編の依頼した全原稿を受理。

一月一七日

- ・石垣久雄氏より竹富島編原稿「教育」受理。

一月二七日

- ・第一回新城島編學習会開催。西大舛高壹氏の調査カードの読み合わせ。

一二月一日

- ・島仲玲子、与那国久枝両氏の竹富島編原稿「社会教育」「産育儀礼」受理し、入力着手（→十二月四日）。島仲氏、与那国氏より學習会開催の要請あり。

一二月五日

- ・第一回竹富島編學習会開催。出席者は石垣久雄、阿佐伊孫良、島仲玲子、与那国久枝、飯田泰彦。島仲・与那国両氏の原稿読み合わせ。

一二月十日

- ・第二回新城島編學習会開催。竹原孫恭氏の新聞掲載の体験談読み合わせ。出席

者は登野原武、野底宗吉、安里功、安里碩八、飯田泰彦。

一月六日

- ・第三回新城島編の原稿編執筆依頼。

一月一六日

- ・第二回竹富島編學習会開催。出席者は石垣久雄、阿佐伊孫良、島仲玲子、与那国久枝、飯田泰彦。

一月一七日

- ・石垣久雄氏より竹富島編原稿「竹富人の一生」受理。

一月二九日

- ・第三回竹富島編學習会開催。出席者は石垣久雄、阿佐伊孫良、島仲玲子、与那国久枝、通事孝作、飯田泰彦。島仲・与那国両氏の原稿読み合わせ。情報交換、関連資料の提示。

一月二一日

- ・黒島編臨時ミーティングにて執筆者候補を挙げる。出席者は坂座真武、當山善堂、通事孝作、飯田泰彦。

一月二五日

- ・第一回「資料編近代」小委員会開催。出席者は登野原武、玉城功一、石垣久雄、本田昭正、飯田泰彦。

一二月二四日

- ・石垣久雄氏より竹富島編原稿「集落と自然」受理。

一二月二六日

- ・登野原武氏より新城島編原稿「琉球王府の特命を受けたばなりの人々」受理、入力着手（→二月五日済）。

一月二八日

・第四回新城島編學習会開催。亀川安兵

衛「新城下地島の思い出」「越えた幾

山河」の読み合わせ。出席者は登野原

武、野底宗吉、安里功、安里碩八、上

江洲儀正、飯田泰彦。

・狩俣恵一氏より「竹富町史字誌原稿料
に関する私案」受理。

・月二九日
・富田哲氏より竹富島編原稿「戦争と竹
富島」受理。

・里井洋一氏、本田昭正氏より、琉球大
学図書館、沖縄公文書館においての原
本調査の報告あり。その結果、「波照
間島番所日誌」の所在を確認。

二月五日

・本田昭正氏より「資料編近代5」の總
説「明治三〇年代の波照間島の生活」
受理。

・石垣久雄氏より竹富島編原稿「社会教
育」受理。

・登野原武氏より新城島編原稿「パナリ
焼－新城島に産した土器－」を受理し、

入力着手(→二月六日済)。

二月九日

・狩俣恵一氏より竹富島編全原稿受理。

・月一二日
・大盛永意氏より小浜島編全原稿「琉球
処分前後の小浜島」「戦争と小浜島」

「戦後の歩み」を受理。

・月一七日
・阿佐伊孫良氏より竹富島編全原稿「テ
タ」受理。

・月二一日
・第二五回竹富町史編集委員会開催。

・月二二日
・西表島編専門部会開催(於・町史編集
室)。

・月二七日
・月二八・二九日
・宮良高弘氏収集資料贈呈式開催

・月二八・二九日
・『竹富町史』資料編「近代5」小委員
会を開催。

・月二九日
・第四回新城島編學習会開催。出席者は

登野原武、野底宗吉、安里功、安里碩
八、上江洲儀正、飯田泰彦。

・月一三日
・里井宏美氏より「波照間島番所日誌」
の解題受理。

・八重山博物館において、登野原武氏、
石垣久雄氏、里井洋一氏による「島庁

通達綴」の原本調査。

三月一六日
・三木健氏より総説「島庁時代の八重山
社会」を受理。

・月二一日
・十三日の調査に伴い、竹富町に関連す
る古文書をコピー。

・月二六日
・月二七日
・月二八・二九日
・宮良高弘氏収集資料贈呈式開催

・月二八・二九日
・『竹富町史』資料編「近代5」小委員
会を開催。

・月二九日
・第四回新城島編學習会開催。出席者は

登野原武、野底宗吉、安里功、安里碩
八、上江洲儀正、飯田泰彦。

・月二九日
・『竹富町史』資料編「近代5」小委員
会を開催。

「万骨」の歴史顕彰を

西表・宇多良炭鉱跡の「近代化産業遺産群」認定に思う

三木 健

認定の意義

経済産業省は、二〇〇七年一月三〇日に「近代化産業遺産群」として、全国から三三の遺産群、その遺産群を構成する五七五件の個体産業遺産について、認定証とプレートの授与をおこなつた。その遺産群の中に、沖縄からは高嶺製糖工場跡と、西表の宇多良炭坑跡の二つが入っている。

「近代化産業遺産群」とは聞きなれない言葉だが、一言でいえば「日本の産業近代化に貢献した産業遺産」ということである。経済産業省はこれらの産業遺産を、地域活性化のために有効活用する観点から、〇七年四月産業遺産活用委員会を設置し、日本各地に現存している産業遺産を公募した。

公募には約一九〇件四〇〇カ所が寄せられたという。これらを基に産業史や地域史のストーリーを軸に整理編集し、産業史に造詣の深い三人で構成する「産業遺産活用委員会」で現地調査を交え、四回にわたる審議を経て三に絞り込み、当該地域に提示したあと、先のような認定となつたのである。認定された遺産群を見ると、幕末から戦前にかけて日本の近代化に貢献した歴史的建造物や造船所、各種鉱山、鉄鋼、製品・原材料を運んだ鉄道跡、織機械、製糸、製紙、港、食品工業、観光施設などが挙がっている。主な認定遺産としては、たとえば造船所なら、旧横浜のドックヤードガーデンや佐世保海軍工廠など、港なら神戸港のメリケン波止場、横浜の赤レンガ倉庫、鉱山関係では足尾銅山や佐渡の金山といった具合である。

これらの施設は、これまでも単体の文化財資源として捉えてきたことはあつた。たとえば文化庁では一九九〇年以降、全国にある産業関連の遺跡等の調査を行い、「近代化遺産」というカテゴリーを設けて使用¹⁾さらに一九九六年の文化財保護法の改正で、登録文化財制度が導入されるに及んで、その保護に乗り出してきたいきさつがある。近代産業が残した建造物などの研究

を「産業考古学」と呼んだりしている。

今回の認定は、これらの産業遺産群を特定のテーマでつなぐことで、建造物などの価値に加え、その背景や地域の産業や技術の歴史、先人の業績などを「ストーリー」をつくつて、その魅力と価値を高め地域活性化に活用しよう、というものである。当然のことながら、遺産施設については、文化庁の「近代化遺産」とも重なつていて。いささか省庁間の縛張り争いの感無きにしも非ずだが、いずれにせよ、これまでこうした産業遺産が、単なる一昔前の産業設備として廃棄されてきたことを思えば、結構なことである。

宇多良炭坑は、西表西部の浦内川の支流・宇多良川沿いに栄えた昭和期の炭鉱で、正式には「丸三炭坑宇多良鉱業所」と言う。西表のジャングルの中に、忽然と誕生した炭鉱である。現在も当時の面影を偲ばせる赤レンガのトロッコのレール支柱や、コンクリートの遺構がある。風化の著しい西表炭坑の中では、かろうじて痕跡を留めている。今回それが「近代化産業遺産群」の一つに加えられ、認定の運びとなつたことは、長年、西表炭坑の歴史発掘に取り組んできた者として、うれしく思う。

宇多良炭坑跡は、先述のとおり日本の近代化を支えてきた「炭鉱」というストーリーから、認定対照にリストアップされたものだ。ちなみに「炭鉱」では、北海道の夕張、小樽、三笠をはじめ、福島県の常磐炭田、長崎県の端島炭鉱（いわゆる軍艦島）、熊本県の三井三池炭鉱、北九州市の石炭積出しの旧門司港などがある。いずれも日本有数の産炭地で、文字通り日本の近代化を支えてきた地域である。

これらの地域と西表炭坑とは、質量ともに比べべくもないが、ただ日本本土から遠く離れた南の孤島まで、採炭が行われていたということ、しかもその孤島性の故に、特異な労働状況があつたということでは、それなりの「ストーリー」性を持つていたのである。

私はその「ストーリー」の持つ魅力に取りつかれ、三十年も前に『開書・西表炭坑』『西表炭坑概史』『写真集・西表炭坑』『西表炭坑史料集成』『西表炭坑夫物語』などにまとめて刊行してきた。それだけに今回の認定は喜びもひとしおである。

とはいって、いささか懸念がないわけではない。それは「日本の近代化に貢

献した」ということで、この炭坑が背負つてきた「負の遺産」まで美化され

ないか、ということである。鉱主や創業者ばかりが顕彰され、そこで犠牲となつた坑夫たちをはじめとする炭坑労働者の悲惨な歴史がスポイルされやしないか、という懸念である。

そうなれば、それこそ「一将功成りて万骨枯る」に等しい。私はこの産業遺産群の認定によって、地底に埋もれていた「万骨」の歴史こそ顕彰されなければならない、と思っている。今後の「ストーリー」作りの中で、これは見落としてはならない視点である。それはとりもなおさず、これら「無告の民」の犠牲の上に、日本の「近代化」は成し遂げられたからにはならない。

宇多良炭坑

それでは認定された宇多良炭坑とは、どのような炭坑であったのか。ここに一枚の写真がある。昭和一〇年代の「丸三炭坑宇多良鉱業所」の全景写真である。写真には坑夫たちのいくつの宿舎、劇場を兼ねた大きな集会所、坑口に向かうトロッコのレール、石炭を運ぶダンペー船が横付けされた貯炭場などが写っている。ジャングルの中に一大炭坑村が築かれたことが一目で分かる。

私は今から三〇数年前に、この写真を国立国会図書館で見つけたときの驚きを、今でも忘れない出来事だ。写真を複写し、それを手に休暇を利用して現場検証に出かけた。浦内川から支流の宇多良川に入り、マングローブの林を潜つて行くと、やがて容樹に絡まつた赤レンガの支柱が目に飛び込んできた。それはこの炭坑にがんじがらめにされ、救いを求める坑夫たちの姿にも思え、鳥肌が立つた。そのときの感動が、まるで昨日のように思い出される。

赤レンガの支柱を手がかりに、これを全景写真に重ねて、私は失われた風景を手織り寄せた。すると目の前の遺構が次々と写真に重なっていく。このときほど私は、写真の持つ記録性に感心したことになかった。貯炭場の跡には、黒ダイヤのかけらが木漏れ日を受けて、きらきらと輝いていた。貯炭場に引き込んだ運河には、ダンペー船の物と見られる焼玉エンジンが、マング

ロープの陰に見え隠れしていた。

宇多良鉱業所の建設が始まったのは、昭和八年である。前々年に起きた満州事変から日本は一五年戦争の戦時体制下にあり、エネルギー資源の増産が求められていた。そうした戦時景気に乗つて、丸三炭坑の野田小市郎が開坑したもので、昭和戦前期を代表する炭坑である。厚さ二尺の炭層発見が開坑の引き金となつたが、黒ダイヤは密林の中にあり、そこを切り開いて炭坑村は建設された。漆黒の闇の世界にアセチレンガスがともり、まるで不夜城と化したのである。炭坑村が一望できる小高い丘の上に野田の邸宅があり、坑夫たちは誰言うとなく「野田御殿」と呼んでいた。



丸三炭坑宇多良鉱業所の貯炭塚
(三木健『西表炭坑写真集』二ライ社刊)



丸三炭坑宇多良鉱業所の全景（昭和10年代）

一九三六（昭和一二）年八月二〇日の『海南時報』は「近代的この施設、來たれ見よ樂天境」の見出しで「宇多良炭坑紹介」の記事を載せている。

「病舎、通風採光に万全を期した宿舎、坑夫の慰安、独身坑夫合宿所（室長制を設け）市価より安値の売店等、温情主義を以て臨み、坑夫の質向上を企図している事実歴然たるものがある。（中略）模範坑は月収八十五円を受くるものあり、貯金・保険を相当額持ち、或は蓄音器を購入するものあり、監獄部屋は往年の痴話に過ぎない。炭坑に対する認識を是正せよ、百聞を一見にしかず宇多良坑を訪れよ！」

「ちようちん記事」ではないかと思われるような持ち上げでぶりである。確かに開坑初期のころは、鉱主も近代的な炭坑経営を目指していたと思われるが、一九四一年の太平洋戦争が勃発して以後は、戦況が悪化するに連れて炭坑も不振となる。坑夫たちの労働もきびしくなり、明治・大正期のような監獄部屋へと戻っていく。

私は、この炭坑で敗戦まで働かされていた元坑夫たちから取材したことがあるが、「人縛り」と呼ばれた監視人の下で、強制労働が行われた。逃亡をゆるさず、見つかれば半殺しにあつた。重労働やマラリアのため死に追いやられた坑夫たちは、宇多良川べりに埋葬されたが、雨降りで水かさが増すと、死体が浮かび上がつたという。

まさに坑夫たちは、容樹に絡め捕られたレンガの支柱のように、ここから逃れることは出来なかつたのだ。宇多良炭坑は、西表炭坑八〇年の歴史の中で、最初の近代的設備を備えた炭坑であつたが、同時にまた、悲惨な最後を閉じた炭坑でもあつた。

保存と活用

ところで「近代化産業遺産群」認定の目的は、それによって保全と活用を図つていこうというのである。では、どのように保全し、どのような方法で活用が期待されるのか。認定したからといって、特別に助成があるわけでもなさそうだ。認定は「世界遺産」の登録などと同様に、いわば「お墨付き」をもらう、という程度のものであろう。保全と活用は、それぞれの自治体で、というわけである。



宇多良炭鉱跡に残るレンガの支柱

『西表炭坑覚書』『南島流転—西表炭坑の生活』の二つの著書を出された。いずれも私が編集に関係したもので、特に後者は佐藤さんの亡くなる直前に刊行された。書き残された手書きの原稿數十冊は、貴重な資料で後世に残されるべきものと判断、遺族にお願いして竹富町史編集室に寄贈していただいた。

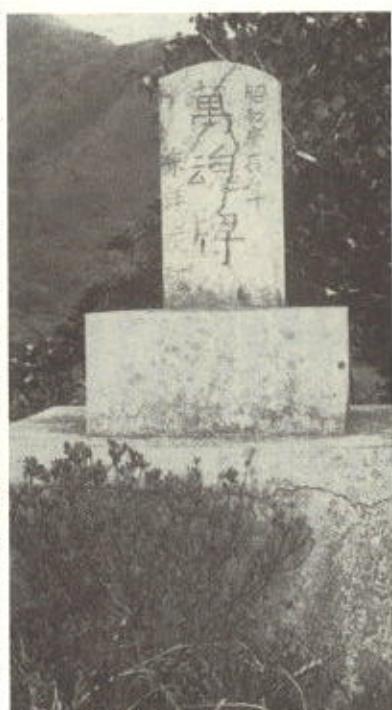
今回の産業遺産の認定は、先にも触れたように、日本の近代化を支えた産業遺産ということから、炭坑に視点を当てたものだ。しかし地域を支えた産業となると、これまた別の産業が挙げられよう。この点に関しては担当の経済産業省地域経済産業政策課も「近代化産業遺産群三三の作成は、近代化の産業史・地域史や近代化産業遺産を網羅的に整理したり、取り上げるものとそうでないものとで文化的優劣などを判定する趣旨のものではなく、各

地域における遺産の価値の普及を可能な限り進める観点から行うものである。(『月刊地域づくり』二二六号)

『地域活性化のための近代化産業遺産群』と断つている。

八重山に関して言えば、農業分野では製糖があるし、バイン産業もある。水産業では、戦前の一時期、八重山経済を支えたかつお製造業などもある。特に与那国、波照間、鳩間などではそれによって島は潤った。しかし、残念なことにこれらの産業は、形としては残されたものがない。私たちは与那国の大きなかつお節工場も、波照間島の燐鉱採掘の跡も、今では写真でしか見ることが出来ない。

失われたものを数えても始まらない



内離島に立つ「萬魂碑」

い。せめて残されたものを大切に保全し、その活用を図るしかない。その意味でも、宇多良炭坑を含む西表炭坑の跡は、八重山での数少ない産業遺産として、これからも大切にしていきたいものだ。それによつて「密林に消えた島の近代」を偲ぶ縁としたい。

また、長年にわたり西表炭坑の歴史の掘り起こしにかかわってきた者として、この「近代化産業遺産群」認定を機会に、炭坑犠牲者の慰靈碑を宇多良炭坑跡の一角に建立したい。その名も「万骨碑」としたい。西表炭坑関係の慰靈碑は、内離島に二つある。ひとつは成屋の浜辺近くにあり「萬魂碑」という。もう一つは東側の南風坂坑跡の山を背にした「供養塔」である。前者は東洋炭鉱が、後者は丸三炭坑がいずれも戦前に建立したものだ。

二〇〇八年四月に慰靈碑の建立について、用地使用の件を当時の大盛武竹富町長に相談したところ、一帯は国有地でしかも管理が林野庁だつたり、国立公園を管理する環境庁だつたりと複雑で、竹富町としても「近代化産業遺産群」の認定を受けて、周辺一帯をどう整備していくか検討したいので、その中で慰靈碑の建立用地も検討したい、とのことであつた。ぜひ、宇多良炭坑の「近代化産業遺産群」認定を機に、竹富町としてもその保存と活用を検討してほしい。同時に新たな「万骨碑」の建立が、炭坑の犠牲となつた人たちの末長い顕彰となることを願うものである。

目次一覧

「竹富町史だより」第三十号の節目にあたり、検索の便宜を図るため、目次（見出し）の一覧を作成した。

【凡例】

- ・表紙で用いた写真に、新しくキャプションを入れた。
- ・シリーズは（　）で括り、それにつづいて見出しが提示した。
- ・筆者、語り手は（　）で括り示した。
- ・明らかな誤りは訂正した。

創刊号(1992年3月31日発行)



〈表紙の写真〉田草取り出発前の婦人たち・西表島 (1941年頃)

竹富町史だより

第2号 (1992年9月30日発行)



〈表紙の写真〉サトウキビの刈り取りへ行く大富の農家 (1963年2月)

竹富町史だより

第3号 (1993年3月31日発行)



〈表紙の写真〉第三興進丸の出航の様子 (黒島)

- ・竹富町史編集基本構想
- ・写真にみるわが町 島間のカツオ漁
- ・文化財探訪 花城井戸
- ・聖地めぐり 白郎原御嶽 (戰跡をたずねて) 忘勿石
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・資料の提供お願い
- ・編集後記
- ・業務日誌
- ・収蔵図書紹介
- ・新聞で知る町の今昔 分村問題
- ・業務日誌
- ・編集後記
- ・県地城史協議会研修会 -南風原町で開催-
- ・戰跡をたずねて 水上特攻艇基地 (通事孝作)
- ・大嵩家板証文 (通事孝作)
- ・文化財探訪 仲本のウブハ (通事孝作)
- ・聖地めぐり 破座間御嶽 (通事孝作)
- ・新聞で知る町の今昔 分村問題
- ・業務日誌
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記
- ・県地城史協議会研修会 -南風原町で開催-
- ・戰跡をたずねて 水上特攻艇基地 (通事孝作)
- ・大嵩家板証文 (通事孝作)
- ・文化財探訪 仲本のウブハ (通事孝作)
- ・聖地めぐり 破座間御嶽 (通事孝作)
- ・新聞で知る町の今昔 分村問題
- ・業務日誌
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記
- ・第三興進丸の出航の様子 (黒島)
- ・島じまの戦さ
- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・戦災実態調査
- ・戦時アルバム (下水部隊／舟浮国防婦人会／水上特攻艇基地／勤労奉仕隊／祖納国防婦人会／牛馬耕訓練生)
- ・戦時をたずねて 内離島の砲台 (通事孝作)
- ・（写真にみるわが町）由布島の民家 (通事孝作)
- ・文化財探訪 船浦スラ所 (通事孝作)
- ・高那家板文書 (通事孝作)
- ・第三興進丸の出航の様子 (黒島)
- ・島じまの戦さ
- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・戦災実態調査
- ・戦時アルバム (下水部隊／舟浮国防婦人会／水上特攻艇基地／勤労奉仕隊／祖納国防婦人会／牛馬耕訓練生)
- ・戦時をたずねて 内離島の砲台 (通事孝作)
- ・（写真にみるわが町）由布島の民家 (通事孝作)
- ・文化財探訪 船浦スラ所 (通事孝作)
- ・高那家板文書 (通事孝作)
- ・第三興進丸の出航の様子 (黒島)
- ・島じまの戦さ
- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・戦災実態調査
- ・戦時アルバム (下水部隊／舟浮国防婦人会／水上特攻艇基地／勤労奉仕隊／祖納国防婦人会／牛馬耕訓練生)
- ・戦時をたずねて 内離島の砲台 (通事孝作)
- ・（写真にみるわが町）由布島の民家 (通事孝作)
- ・文化財探訪 船浦スラ所 (通事孝作)
- ・高那家板文書 (通事孝作)
- ・第三興進丸の出航の様子 (黒島)
- ・島じまの戦さ
- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・戦災実態調査
- ・戦時アルバム (下水部隊／舟浮国防婦人会／水上特攻艇基地／勤労奉仕隊／祖納国防婦人会／牛馬耕訓練生)
- ・戦時をたずねて 内離島の砲台 (通事孝作)
- ・（写真にみるわが町）由布島の民家 (通事孝作)
- ・文化財探訪 船浦スラ所 (通事孝作)
- ・高那家板文書 (通事孝作)
- ・第三興進丸の出航の様子 (黒島)
- ・島じまの戦さ
- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・戦災実態調査
- ・戦時アルバム (下水部隊／舟浮国防婦人会／水上特攻艇基地／勤労奉仕隊／祖納国防婦人会／牛馬耕訓練生)
- ・戦時をたずねて 内離島の砲台 (通事孝作)
- ・（写真にみるわが町）由布島の民家 (通事孝作)
- ・文化財探訪 船浦スラ所 (通事孝作)
- ・高那家板文書 (通事孝作)

竹富町史たり

第4号 (1993年9月30日発行)



〈表紙の写真〉鳩間島友利御嶽にて神司の集合写真（1923年の雨乞い儀式にて宮良當社氏撮影）

- ・(聖地めぐり)保里御嶽（通事孝作）
- ・(新聞で知る町の今昔)黒島尋常小学校敷地選定問題（通事孝作）
- ・県地域史協議会研修会－南風原町で開く－
- ・(歴史の証言)吉田原部落を語る（語り手／大城清三）
- ・文化短信
- ・(地名あれこれ)サコサバリ
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記

竹富町史たり

第5号 (1994年3月31日発行)



〈表紙の写真〉昭和30年代の小浜幼稚園

- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・戦争体験記録の意義
- ・嵩秀雄）村役場の小浜移転（語り手／大嵩秀雄）
- ・県地域史協議会総会－中城村で開催－
- ・文化短信
- ・(地名あれこれ)アカツアバナ
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記

竹富町史たり

第6号 (1994年9月30日発行)



〈表紙の写真〉竹富小中学校の井戸から水を汲み上げる生徒たち

- ・(新聞で知る町の今昔)八重山分村問題（通事孝作）
- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・小浜島の唐人墓碑（通事孝作）
- ・県地域史協議会研修会
- ・竹富町史第十二巻資料編戦争体験記録の編集理念
- ・戦災実態調査記入要領
- ・戦時・戦後体験記録の募集要項
- ・竹富町史第十二巻資料編戦争体験記録の編集理念
- ・戦争体験記録の意義
- ・(地名あれこれ)アカツアバナ
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記

- ・(聖地めぐり)保里御嶽（通事孝作）
- ・(新聞で知る町の今昔)黒島尋常小学校敷地選定問題（通事孝作）
- ・(歴史の証言)吉田原部落を語る（語り手／大城清三）
- ・文化短信
- ・(地名あれこれ)サコサバリ
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記

- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・戦争体験記録の意義
- ・嵩秀雄）村役場の小浜移転（語り手／大嵩秀雄）
- ・県地域史協議会総会－中城村で開催－
- ・文化短信
- ・(地名あれこれ)アカツアバナ
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記

- ・(新聞で知る町の今昔)八重山分村問題（通事孝作）
- ・戦時・戦後体験記録の募集要綱
- ・小浜島の唐人墓碑（通事孝作）
- ・県地域史協議会研修会
- ・竹富町史第十二巻資料編戦争体験記録の編集理念
- ・戦災実態調査記入要領
- ・戦時・戦後体験記録の募集要項
- ・竹富町史第十二巻資料編戦争体験記録の編集理念
- ・戦争体験記録の意義
- ・(地名あれこれ)アカツアバナ
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記

- ・戦争体験聞き取り調査－島単位に順調に進行中－
 - ・県地域史協議会総会及び研修会－豊見城村で開かれる－
 - ・戦時・戦後体験記録の募集要項
 - ・戦争体験記録の意義
 - ・(歴史の証言) 小浜島のカツオ漁業 (語り手／大山朝康)
 - ・(新聞で知る町の今昔) 痢病患者収容所設置問題 (通事孝作)
 - ・(写真に見るわが町) スポーツ交流大会 (通事孝作)
 - ・(戦跡をたずねて) 忠魂碑 (通事孝作)
 - ・(古文書紹介) 波照間島のクリヨン (通事孝作)
 - ・(聖地めぐり) 西塘御嶽
 - ・収蔵図書紹介
 - ・業務日誌
 - ・編集後記
- 第7号 (1995年3月31日発行)
- 
- 〈表紙の写真〉大原中学校(1952年頃か?)

- ・戦争体験記録の編集
 - ・(写真に見るわが町) 浦内橋の完成 (通事孝作)
 - ・(新聞で知る町の今昔) 村役場移転 (通事孝作)
 - ・(古文書紹介) 波照間村番所の板文書 (通事孝作)
 - ・(文化財探訪) ブズマリ (通事孝作)
 - ・(聖地めぐり) 友利御嶽 (通事孝作)
 - ・(歴史の証言) 炭鉱 学校教育、炭焼き生活 (語り手／永田欣也)
 - ・収蔵図書紹介
 - ・業務日誌
 - ・編集後記
- 第8号 (1995年9月30日発行)
- 
- 〈表紙の写真〉波照間小中学生の八重山復興博覧会見学記念写真 (1950年8月)

- ・戦争体験記録の編集
 - ・(戦跡をたずねて) 機銃眼跡 (通事孝作)
 - ・(写真に見るわが町) 黒島中学校野球部 (通事孝作)
 - ・(新聞で知る町の今昔) 小浜校に愛の贈物 (通事孝作)
 - ・(歴史散歩) 丸三宇多良炭坑鉱業所
 - ・(文化財探訪) 仲間第一貝塚
 - ・(聖地めぐり) 真徳利御嶽 (通事孝作)
 - ・収蔵図書紹介
 - ・業務日誌
 - ・編集後記
- 第9号 (1996年3月29日発行)
- 
- 〈表紙の写真〉西表島農業資源調査 (1980年)

・「竹富町史」第11巻資料編 「新聞集成II」を発刊－大正六年(1917年)から昭和八年(1933年)の記事収録－

・第十一回町史編集委員会を開催－「戦争体験記録」収録項目の決定－

・第九回町史編集委員会－十六人に委嘱状を交付－

・町史編集委員会トピック－竹富島で史跡巡検

・沖縄県地域史協議会研修会

- ・官報登載沖縄県関係資料を購入——二四七冊をマイクロ複製本——
 - ・沖縄県地域史協議会研修会——名護市で開催——
 - ・戦さ場の実相——島じまの語り部たち——「護郷隊の思い出」(大嵩善立・小浜出身)、「空襲を避けた農作業」(鳩間ヒヤマ・鳩間出身)、「避難途中に敵機来襲」(鳩間昭子・鳩間出身)
 - ・『亨真に見るわが町』八重山義勇軍西表独立中隊
 - ・『戦争関係資料紹介』
 - ・『新聞で知る町の今昔』招魂祭
 - ・『戦跡をたずねて』船浮の海軍豪跡
 - ・『文化財探訪』マシユク村(通事孝作)
 - ・『収蔵図書紹介』
 - ・『業務日誌』
 - ・『編集後記』
 - ・『表紙の写真』新城尋常小学校(1940年頃)
- 竹富町史たり**
- 第10号(1996年9月30日発行)
-
- 竹富町史たり**
- 第11号(1997年3月31日発行)
-
- 竹富町史たり**
- 第12号(1997年9月30日発行)
-
- ・沖縄県地域史協議会研修会——佐敷町で開催——
 - ・戦さ場の実相——島じまの語り部たち——「青空学校と避難生活」(嘉弥真慶吉・網取出身)、「外離島での軍作業と空襲」(山城スミ・網取出身)、「挺身隊としての辛い体験」(新盛良政・波照間島出身)
 - ・『亨真に見るわが町』漁民の村(通事孝作)
 - ・『新聞で知る町の今昔』國立南風見診療所
 - ・『戦跡をたずねて』国吉家の機銃弾跡
 - ・『聖地めぐり』南神山御嶽
 - ・『文化財探訪』下田原城跡
 - ・『収蔵図書紹介』
 - ・『業務日誌』
 - ・『編集後記』(通事孝作)
 - ・『表紙の写真』大原初等学校古見分教場(1953年)
- (語り手／前本良吉)
- ・沖縄県地域史協議会研修会——佐敷町で開催——
 - ・島の調査(宮良賢貞、「八重山民報」一九二〇年二月一日掲載)
 - ・『新聞掲載論稿』鳩間島記事(宮良當壯、「八重山新報」一九二七年一月二一日掲載)
 - ・『新聞で知る町の今昔』大政翼賛会竹富村支部
 - ・『聖地めぐり』東御嶽
 - ・『文化財探訪』ライジ浜貝塚
 - ・『収蔵図書紹介』
 - ・『業務日誌』
 - ・『編集後記』(通事孝作)
 - ・『表紙の写真』ランパート高等弁務官の西表小中学校訪問(1972年2月14日)
- (語り手／前本良吉)
- ・第三回ばいぬ島写真展——第四回ばいぬ島まつりで催され好評を博す——
 - ・沖縄県地域史協議会研修会——カムイヤキの島・徳之島で開催——
 - ・『町史編集委員会トピック』黒島史跡巡見
 - ・『歴史の証言』小浜尋常小学校移転と井戸掘り
 - ・『沖縄県統計書』を購入——七十冊をマイクロ複製本——
 - ・『沖縄県統計書』を購入——七十冊をマイクロ複製本——
 - ・『沖縄県地域史協議会の開催』
 - ・『町史編集委員会トピック』黒島史跡巡見
 - ・『歴史の証言』小浜尋常小学校移転と井戸掘り
 - ・『沖縄県統計書』を購入——七十冊をマイクロ複製本——

・新聞資料紹介 燐々と海に輝く波照間島（先島朝日新聞）一九三九年一月三〇日、二月三日、二月六日掲載

・波照間島の人口動態－近世から現代まで－（通事孝作）

・史料紹介 西表治安裁判所の印影

・（新聞で知る町の今昔）柴田村政の顛末

・聖地めぐり 幸本御嶽

・収蔵図書紹介

・業務日誌

・編集後記

竹富町史たり

第13号（1998年3月31日発行）



〈表紙の写真〉網取小中学校の終業式及び卒業式（一九七〇年）

・町史編集委員会トピックス 小浜島の史跡巡見

・竹富町史第十巻資料編「前近代・近代」編集要綱

・竹富町関係近代・前近代資料目録

・（新聞で知る町の今昔）バージャー民政官の視察

・収蔵図書紹介

・業務日誌

・編集後記

竹富町史たり

第14号（1998年9月30日発行）



〈表紙の写真〉竹富町産業共進会（1967年5月）

・新聞で知る町の今昔 私立白浜尋常小学校の創立

・収蔵図書紹介

・業務日誌

・編集後記

竹富町史たり

第15号（1999年3月31日発行）



〈表紙の写真〉黒島小学校の給食風景（1963年頃）

・竹富町制五十周年記念誌「ぱいぬしまじま五十」を発刊－写真、年表、統計資料の三本立てで編集－

・竹富町史編集委員会トピック 新城島（上地、下地）史跡巡見

・沖縄県地域史史料展－那覇市民ギャラリーで開催－

・琉球王府時代の古文書を購入－「近代」「前近代」編集に活用－

・八重山地域史協議会研修会－波照間島で実施－

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」編集要領

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書翻刻要項

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書収録要項

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書翻刻要項

・（写真にみるわが町）農耕水牛者の渡波り

・（文化財探訪）ウティスクヤマ遺跡

・（聖地めぐり）西神山御嶽

・『竹富町史』第十二巻資料編「戦争体験記録」を発刊－一六五人の戦争体験証言と戦災実態調査等を収録－

・『竹富町史』第十一巻資料編「新聞集成III」を発刊－一六七件の記事を収録し、昭和九年から二十年の世相を浮き彫り－

・竹富町史第十三回編集委員会を開催－新たに編集委員四人を増員、「前近代・近代」編を審議－

・竹富町史第十三回編集委員会を開催－新たに編集委員四人を増員、「前近代・近代」編を審議－

・（写真にみるわが町）農耕水牛者の渡波り

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書収録要項

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書翻刻要項

要項

・古文書紹介 開墾之義ニ付願

・写真にみるわが町 古見の十五夜綱引き

・聖地めぐり 阿底御嶽

・文化財探訪 鳩間中森

・収蔵図書紹介

・業務日誌

・編集後記

・新聞で知る町の今昔 西表島森林での米軍演習

・編集後記

竹富町史たり

第16号(1999年9月30日発行)



〈表紙の写真〉 鳩間島の豊年祭（1950年頃）

- ・竹富町史資料集「鉄田日記」発刊へ―戦時資料として編集作業進―
- ・八重山地域史協議会総会―本年度事業計画等を決める―
- ・沖縄県地域史協議会の研修会―糸満市で開催―
- ・（古文書紹介）明治十四年 大地方之御嶽並伊部名拝殿坪数神官人調帳
- ・（聖地めぐり）仲筋御嶽
- ・（写真にみるわが町）白浜集落の遠景
- ・（廃村調査報告）高那村跡探訪（通事孝作）
- ・（収蔵図書紹介）

・業務日誌
・編集後記

竹富町史たり

第17号(2000年3月31日発行)



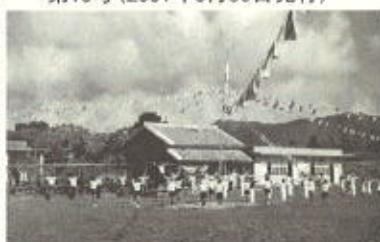
〈表紙の写真〉 波照間中学校の修学旅行（1963年6月）

- ・第十五回町史編集委員会トビック―波照間島の史跡巡見
- ・（竹富町史編集委員会トビック）波照間島の史跡巡見
- ・（史料紹介）八重山島管内西表島仲間村巡査統計誌 田代安定編撰（解説／通事孝作）
- ・（聖地めぐり）佐久伊御嶽
- ・（写真にみるわが町）自然廢村の網取集落
- ・（文化財探訪）花城村跡遺跡
- ・（収蔵図書紹介）
- ・（業務日誌）
- ・（編集後記）

・聖地めぐり 南風保多御嶽
・写真にみるわが町 仲間港での送別
・記念碑を訪ねて 感謝記念碑
・収蔵図書紹介
・業務日誌
・編集後記

竹富町史たり

第19号(2001年3月30日発行)



〈表紙の写真〉 西表島古見小学校の運動会（1968年）

- ・（古文書紹介）明治十四年 大地方之御嶽並伊部名拝殿坪数神官人調帳
- ・（聖地めぐり）仲筋御嶽
- ・（写真にみるわが町）白浜集落の遠景
- ・（廃村調査報告）鹿川村跡探訪（通事孝作）
- ・（史料紹介）八重山島管内宮良間切鷲間島巡検統計誌（通事孝作）
- ・（嘱託交付）

竹富町史たり

第18号(2000年9月29日発行)



〈表紙の写真〉 西表島の上原集落（1960年）

- ・(竹富町史編集委員会トピック) 西表島東部の史跡巡見
- ・竹富町史島じま編集要領
- ・竹富町史島じま編集委員会トピック 西表島東部の史跡巡見
- ・(聖地めぐり) 与那良御嶽
- ・(写真にみるわが町) 大富の農村生活
- ・(記念碑を訪ねて) 三離橋碑、大枝橋碑
- ・(文化財探訪) 高那城遺跡
- ・(史料紹介) 學務書類綴(その一)(翻刻/登野原武)
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記
- ・(表紙の写真) ミンサーの経糸を巻き取る作業風景(竹富島)

竹富歴史たり

第20号(2001年9月28日発行)



〈表紙の写真〉ミンサーの経糸を巻き取る作業風景(竹富島)

- ・(文化財探訪) 16 古見赤崎スラ所跡
- ・『鉄田義司日記』補遺(解説/通事孝作)
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記
- ・(表紙の写真) 小浜島の神司たち

竹富歴史たり

第21号(2002年3月29日発行)



〈表紙の写真〉小浜島の神司たち

- ・(文化財探訪) 16 古見赤崎スラ所跡
- ・『鉄田義司日記』補遺(解説/通事孝作)
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記
- ・(表紙の写真) 網取小中学校は廃校になった同じ年の3月23日、閉校式を行い、児童生徒は母校に別れを告げた。写真は終業式を行なった閉校式後の記念撮影の様子である。

竹富歴史たり

第22号(2002年9月30日発行)



〈表紙の写真〉網取小中学校は廃校になった同じ年の3月23日、閉校式を行い、児童生徒は母校に別れを告げた。写真は終業式を行なった閉校式後の記念撮影の様子である。

竹富町史だより

竹富町史だより

第24号(2003年9月30日発行)



〈表紙の写真〉西表青年学校船浮分校の生徒と教官（1940年頃）

- ・竹富町史第十一巻資料編「新聞集成V」を発刊
- ・明治三十年代初・中期を知る貴重な資料
- ・（資料紹介）波照間の歴史・伝説考（二）
- ・仲本信幸遺稿集

- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記（通事孝作）

竹富町史だより

第23号(2003年3月31日発行)



〈表紙の写真〉西表島の白浜集落

- ・（写真に見るわが町）22 高等弁務官の贈り物
- ・（文化財探訪）18 下田原貝塚
- ・（聖地めぐり）21 美底御嶽

- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記（通事孝作）

竹富町史だより

第25号(2004年3月31日発行)



〈表紙の写真〉なかはら幼稚園終了式（黒島1955年頃）

- ・第十九回町史編集委員会開催－「島じま編」総項 目などを審議－
- ・竹富町史編集委員会第八回史跡巡見－鳩間島の 史跡を訪ねて－
- ・（資料紹介）波照間の歴史・伝説考（三）－仲本信幸遺稿集－
- ・（資料紹介）波照間の歴史・伝説考（三）－仲本信幸遺稿集－
- ・（写真に見るわが町）23 野辺送り
- ・（写真に見るわが町）23 野辺送り
- ・（記念碑を訪ねて）6 大東亜戦勝記念碑
- ・（文化財探訪）19 ピサダ道
- ・（聖地めぐり）22 久間原御嶽

- ・（聖地めぐり）23 成屋御嶽
- ・（文化財探訪）20 新里村遺跡
- ・（新聞で知る町の今昔）16 南静園退園者の集 団移住計画
- ・（写真に見るわが町）24 墓造りユイマール
- ・（新聞で知る町の今昔）16 南静園退園者の集 団移住計画
- ・（聖地めぐり）23 成屋御嶽
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・編集後記（通事孝作）

竹富町史だより

第26号(2004年9月30日発行)



〈表紙の写真〉波照間小中学校の昭和36年度終業式の小学2年生たち（1962年3月）

- ・（写真に見るわが町）25 美原集落の誕生
- ・（竹富町史編集委員会トピック）竹富島の史跡 を訪ねて

竹富町史だより

第27号(2005年9月30日発行)



〈表紙の写真〉西表島大原の4Hクラブ・1957年

- ・文化財探訪 21 ブシンヤー
- ・新聞で知る町の今昔 17 水飢饉に悩む島の人たち
- ・史料紹介「官報」掲載八重山関係資料①
- ・聖地めぐり 23 保慶御嶽
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・竹富町史刊行物
- ・編集後記
- ・『竹富町史』第十巻資料編「近代3—新城村頭の日誌」発刊—宮良当整の「日記」二点等を収録！
- ・第二回竹富町史編集委員会—「島じま編」等を審議し承認！
- ・写真にみるわが町 26 新城島民の南風見移住
- ・記念碑を訪ねて 6 祖平字根之碑
- ・聖地めぐり 24 清明御嶽
- ・史料紹介「官報」掲載八重山関係資料②
- ・収蔵図書紹介

竹富町史だより

第29号(2007年9月28日発行)



〈表紙の写真〉鳴間島の友利御嶽に勢揃いした神司とティジリビたち

- ・業務日誌
- ・竹富町史の刊行物
- ・編集後記（通事孝作）

竹富町史だより

第28号(2006年9月30日発行)



〈表紙の写真〉竹富島ンフル丘からの風景（1965年頃）

- ・聖地めぐり 25 喜屋武御嶽
- ・文化財探訪 22 大平井戸
- ・史料紹介「東京人類学会報告第十三号（明治二十年二月刊）所収 沖縄県武富島歴見事奇事 S・S（阿佐伊孫良）
- ・史料紹介「官報」掲載八重山関係資料③
- ・（報告）「ミーナライ・シキナライ」会のこと（阿佐伊孫良）
- ・収蔵図書紹介
- ・業務日誌
- ・竹富町史の刊行物
- ・編集後記（通事孝作）
- ・『竹富町史』第十巻資料編「近代4—官報にみる八重山」発刊
- ・第二回竹富町史編集委員会—委員十五人に委嘱状を交付！
- ・写真にみるわが町 27 祖納集落の脱穀光景

竹富町史だより

第30号(2009年3月31日発行)



〈表紙の写真〉波照間島の港の光景である。昭和38年に人々の暮らしや宗教、文化等の調査のために島を訪れた社会人類学者の宮良高弘氏が撮ったもの。

- ・業務日誌
- ・宮良高弘氏から貴重な民俗資料寄贈を受ける
- ・竹富町史編集委員会の動向
- ・業務日誌
- ・「万骨」の歴史顕彰を（三木健）
- ・竹富町史だより目次一覧
- ・平成二〇年度受贈図書一覧
- ・沖縄県立図書館の存続についての要請
- ・編集後記
- ・『竹富町史』第十巻資料編「近代4—官報にみる八重山」発刊
- ・第二回竹富町史編集委員会—委員十五人に委嘱状を交付！
- ・写真にみるわが町 28 祖納集落の脱穀光景

平成20年度受贈図書一覧

多数の個人、関係機関等から寄贈を受けております。
あわせてお礼申し上げます。

| 受贈図書（発行年・著者） | 寄贈者芳名 |
|--|----------------------------|
| 石垣市史巡見 VOL. 10 村むら探訪－石垣島の風景と歴史（周遊の旅）－（2008年・石垣市総務部市史編集課編） | 石垣市総務部市史編集課編 |
| 石垣市史叢書16 一北木山風水記一（2008年・石垣市総務部市史編集課編） | 石垣市総務部市史編集課 |
| 西表島における人と森林との歴史に関する調査報告書（平成19年度）（2008年・九州森林管理局） | 九州森林管理局 |
| 西表島の名木集（2009年・九州森林管理局、森林環境保全ふれあいセンター、竹富町教育委員会） | 竹富町教育委員会 |
| 沖縄近代法の形成と展開（2007年） | 田里修・森謙二 |
| 沖縄研究ノート17《共同研究》南島における民族と宗教（2008年・宮城学院女子大学キリスト教文化研究所） | 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 |
| 沖縄県公文書館研究紀要 第10号（2008年） | 沖縄県公文書館指定管理者沖縄文化振興会 |
| 沖縄県公文書館研究紀要 第11号（2009年） | 沖縄県公文書館指定管理者沖縄文化振興会 |
| 沖縄県史だより 第17号（2008年） | 沖縄県文化振興会 資料編集室 |
| 沖縄県平和祈念資料館 年報第8号（2007年度）（2008年） | 沖縄県平和祈念資料館 |
| 沖縄県平和記念資料館だよりNo16（2009年） | 沖縄県平和記念資料館 |
| 沖縄県立芸術大学付属図書・芸術資料館資料 鎌倉芳太郎資料集 第1巻 紅型型紙（1）（2002年・沖縄県立芸術大学付属研究所） | 沖縄県立芸術大学付属研究所 |
| 沖縄県立芸術大学付属図書・芸術資料館資料 鎌倉芳太郎資料集 第2巻 紅型型紙（2）（2003年・沖縄県立芸術大学付属研究所） | 沖縄県立芸術大学付属研究所 |
| 沖縄県立芸術大学付属図書・芸術資料館資料 鎌倉芳太郎資料集（ノート編）第1巻 美術工芸（2004年・沖縄県立芸術大学付属研究所） | 沖縄県立芸術大学付属研究所 |
| 沖縄県立芸術大学付属図書・芸術資料館資料 鎌倉芳太郎資料集（ノート編）第2巻 美術工芸（2004年・沖縄県立芸術大学付属研究所） | 沖縄県立芸術大学付属研究所 |
| 沖縄戦の全学徒隊（2008年・ひめゆり平和祈念資料館） | ひめゆり平和祈念資料館 |
| 沖縄大学地域研究所年報（2007年度）（2008年・沖縄大学地域研究所） | 沖縄大学地域研究所 |
| 「沖縄県令達類纂（上下巻）」所収令達一覧合冊版（2006年・青嶋敏編） | 田里修・森謙二 |
| 沖縄における近代法の形成と現代における法的諸問題（研究成果報告書）（2005年） | 田里修・森謙二 |
| カマイサミット in 西表（第二回）資料報告書（2009年・第二回カマイサミット in 西表実行委員会） | 石垣金星、第二回カマイサミット in 西表実行委員会 |

| | |
|---|-------------------|
| 感想文集 ひめゆり第19号 (2008年・ひめゆり平和祈念資料館) | ひめゆり平和祈念資料館 |
| 宜野湾市史 第8巻 資料編7戦後資料編I 戦後初期の宜野湾 (資料編) (2008年) | 宜野湾市教育委員会文化課 |
| 国立歴史民族博物館ガイドブック | 松尾恒一 |
| 国立歴史民族博物館要覧 (平成19年度) (2007年) | 松尾恒一 |
| 首里城研究 No10 (2008年・首里城研究会編) | 首里城公園友の会 |
| 資料編集室紀要 第33号 (2008年) | 沖縄県教育委員会 |
| 新選・沖縄現代詩文庫④ 砂川哲雄詩集 (2008年・脈) | 砂川哲雄 |
| 新聞で見る竹富町の子どもたち (平成18年度) (2007年・竹富町教育委員会) | 竹富町教育委員会 |
| 新聞で見る竹富町の子どもたち (平成19年度) (2008年・竹富町教育委員会) | 竹富町教育委員会 |
| 竹富町の教育 (平成16年度) (平成17年・竹富町教育委員会) | 竹富町教育委員会 |
| 竹富町波照間島研究報告書－島民ライフ・ヒストリー集とアンケート調査－ 2008年度高村ゼミナール (2009年・立命館大学政策科学部) | 高村学人、高村ゼミのみなさん |
| 地域研究シリーズNo三五 八重山、与那国調査研究報告書(2) (2008年・沖縄国際大学南島文化研究所) | 沖縄国際大学南島文化研究所 |
| 地域研究 No4 (2008年・沖縄大学地域研究所) | 沖縄大学地域研究所 |
| 渡久山春好著作ノート (2006年・渡久山春好／森謙二編) | 田里修・森謙二 |
| 年報 第19号 (2008年・ひめゆり平和祈念資料館) | ひめゆり平和祈念資料館 |
| 波照間島の歴史・伝説考－仲本信幸遺稿集－ (2004年・本田昭正編) | 本田昭正 |
| 非世界No18 (2009年・非世界同人会) | 砂川哲雄 |
| ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第40号 (2008年) | ひめゆり平和祈念資料館 |
| ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第41号 (2008年) | ひめゆり平和祈念資料館 |
| 百歳人研究と長寿人類額 (2009年・全京秀) | 全京秀 (チョン・ギョンス) |
| ふる里点描 VOL. 1 (2008年・松島昭司) | 松島昭司 |
| 法政大学沖縄文化研究所所報 第62号 (2008年) | 法政大学沖縄文化研究所 |
| 真実一筋一まくとうびとうすず一 (2008年・本盛茂) | 本盛秀 |
| 宮古島市史資料1 柳田國夫筆写本「宮古島近古文書」の翻刻シリーズ① 明治期宮古島の旧慣調査資料 (2008年・宮古島市教育委員会文化振興課編) | 宮古島市教育委員会 |
| 八重山から。八重山へ。一八重山文化論序説－シリーズ八重山に立つNo3 (2007年・砂川哲雄) | 砂川哲雄 |
| 山の彼方に 八重高卒五十周年記念誌(2008年・五十周年記念誌編集委員会編) | 石垣久雄、八重山高等学校第十期生会 |
| 琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集 (第8回) (2007年・沖縄県文化振興会史料編集室編) | 沖縄県教育委員会 |
| 中琉歴史関係档案 (5) (6) (7) (中国第一歴史档案館編) | 沖縄県教育委員会 |

沖縄県教育長 殿

沖縄県立図書館八重山分館の存続についての要請

私たち竹富町史編集委員会は、2006年に策定された「沖縄県行政改革プラン」に基づく、沖縄県立図書館八重山分館の廃止案を撤回し、同館の存続を強く要請いたします。

図書館は、地域住民の需要を把握し、資料・情報を収集・整理・保存・提供し、人々の生涯学習を指導、助言を行う図書館行政の現場であり、日本図書館協会も「図書館の自由に関する宣言」のなかで、「図書館は基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを重要な任務とする」とうたっています。この度の沖縄県立図書館八重山分館廃止案は、図書館の基本的な精神に反するもので、私たちの「知る権利」をないがしろにしたものです。

多くの離島を抱えた、八重山地域においてこそ、県立図書館八重山分館の社会的役割は大きく、同館の援助が必要であることはいうまでもありません。特に、私たちは竹富町史編集委員として、竹富町の歴史を編んでいくとき、大学等研究機関のない八重山地域では、歴代館長・図書館員の努力により収集された、資料・情報はかけがえのないものであり、これらを反映した歴史を編んでいくことが求められています。

さて、県立図書館八重山分館は、地域住民への図書の貸し出しなどによる、文化の振興を図ることを目的に、1914年、八重山通俗図書館の名称でスタートしました。第2次世界大戦後の米軍占領下においては、図書館設立委員会を設立し、八重山民政府文教部会の一室に図書館を設置し、図書の寄贈や寄付を募り、また基金造成のための演劇会などを開催して、財政難を乗り越えてきました。その後、1952年には琉球政府立八重山図書館、1972年には沖縄県立図書館八重山分館と名称を改めながら、現在に至る歴史を有しています。このような八重山地域において、歴史的にも意義のある、同館を財政難という理由で廃止することは容認できません。

これまでに八重山分館が行ってきた、竹富町・与那国町への移動図書館や団体貸し出しは、子ども達や学校関係者、地域の人々から高い評価を受けています。また、児童生徒の自学自習の場、生涯学習の拠点であると同時に、すべての分野が網羅されている図書館は、人々が生活を営むうえでも、あらゆる分野の相談所でもあります。人々が困難に立ち向かうときの足がかりとしても、図書館は生活に欠かすことのできない場所ではないでしょうか。

沖縄県立図書館八重山分館の存続を強く要求いたします。

2008年7月25日

竹富町史編集委員長 登野原 武

竹富町史編集委員 西里喜行 黒島精耕 玻座間武

玉城功一 石垣久雄 當山善堂

新本光孝 阿佐伊孫良 里井洋一

石垣金星 吉川安一 本田昭正

花井正光

編集後記

◆「竹富町史だより」第30号を発刊する」とができました。

◆年度末、宮良高弘氏（札幌大学名誉教授）の長年収集された民俗資料の寄贈がありました。ここに記し改めて感謝の意を表します。早速そのなかから写真を本号の表紙に用いました。

◆今回は30号の節目にあたり、収録記事の検索の便を図つて、「目次（見出し）一覧」を作成しました。作成にあたり先輩方の地道な編集作業の動向を垣間見た思いです。さらには、大勢の町民、編集委員の方々が関わりながら、町史編集に取り組んでいることがわかり、「町民参加の町史づくり」が実感できました。多くの方にこの「一覧」を活用していただければ幸いです。

◆さて、竹富町史の本編ともいべき、「島じま編」の発行が、平成21年度の「竹富島編」を皮切りにはじまります。今後は『町史だより』の蓄積と既刊の『竹富町史』を大いに活用し、「島じま編」に反映させていく決意です。

◆尚、巻末には、町史編集委員会から沖縄県教育長宛てた「沖縄県立図書館八重山分館の存続についての要請」文を付しておきます。（飯田泰彦）



平成21年3月31日発行

竹富町史だより

第30号

編集発行 竹富町教育委員会

沖縄県石垣市美崎町11番地-1

☎ 0980-82-6191